

2011年8月20日（土）明治薬科大学オープンキャンパス公開講座

「東洋医学の知恵の結晶～漢方薬とそこから生まれた新たなくすりの物語～」15：00～16：00

（天然薬物学 講師 馬場 正樹）

『生薬(しょうやく)・漢方薬』と聞いて何をイメージしますか？中国の伝統医学、自然な感じ、呪術的なもの、ご老人の薬、あるいは古めかしい、などではないでしょうか。

しかし、明治以降、西洋医学にとってかわられた東洋医学・漢方は、最近、高齢化社会の進行に伴い見直されてきています。特に、どことなく調子が悪いのだけれど検査してもどこも悪くない、といった従来の西洋医学では病気と言えないものなどに、からだ全体のバランスを中心に考える東洋医学に基づいた漢方薬が新たな活躍の場を与えられてきています。

また、普段使う風邪薬の成分なども、意外と知られていないのですが、実は漢方薬の効果を基に作られたものが数多くあります。そして、現在でも薬を作る原材料を植物のエキスなど天然に存在する資源に依存しているものも少なくありません。

今回は、なぜ今、漢方薬なのか、そして、そこから生まれた新たなくすりについて、洋の東西を問わず薬を求め続けた人類の歴史を交えてご紹介していきます。